（一社）茨城県建築士会　青年女性委員会

“HUG 体験ワークショップ”活動報告

防災塾・だるま
（白田克雄・中村俊光・成松洋）

1.　HUG 体験ワークショップの概要

主催:　（一社）茨城県建築士会　青年女性委員会

協力:　防災塾・だるま　白田克雄（ﾘｰﾀﾞｰ）　中村俊光（講師）　成松洋（ﾂｰﾙ・ﾚﾎﾟｰﾄ）

テーマ:　防災・減災について考えよう！
HUG（避難所運営ゲーム）から学ぶ　　災害時の避難所生活の実態を知る

日時:　平成29年12月2日（土）　13:30～17:00　　会場:　茨城県開発公社ビル　1階中会議室

参加者:　36名　（6名／グループ　x　6グループ）

進行:　13:30～13:35　開会挨拶　横須賀 孝氏（茨城県建築士会青年委員長）
13:35～13:50　防災塾・だるま挨拶と HUG の説明（白田リーダー）
13:50～14:05　アイスブレーキング（各グループで自己紹介、役割分担）
14:05～16:55　HUG の実践（中村講師）
14:05～15:10　HUG の実践（前半）
15:10～15:25　休憩
15:25～15:45　HUG の実践（後半～まとめ）
15:45～16:55　グループ発表・質疑・講評
16:55～17:00　閉会挨拶　平沼 清美（茨城県建築士会女性委員長）

横須賀 青年委員長

災害では予想がつかない事態に遭遇します。
いざという時に対応できるには・・・・
今回は避難所運営をテーマにワークショップを企画し、また、水戸市地域安全課危機管理室の協力で防災グッズの展示も実現しました。　みなさんとゲームを通じて楽しく・真剣に防災を学びたいと思います。

司会の根本さん

2.　防災塾・だるま挨拶と HUG＝Hinanjyo（避難所）・unnei（運営）・Game（ゲーム）の説明

HUGは、万が一の時の避難所運営を、カードに書かれた、続々と避難してくる避難者情報・次々と発生する事案・問題・災害本部からの連絡・照会等にどう対応するかを、避難所と体育館の図面に落と込んでいく、ゲーム感覚で防災を学んでいただくものです。
防災に備えるということに終わりはありません。「これが正解」というのではなく、みんなが全員参加で、どう対応するか・なぜそう対応するのかを考えて議論していただくことが、みなさんの防災への引き出しを増やしていくことにつながります。

白田リーダー

3. HUG（避難所運営ゲーム）の実践

中村 講師

みなさんは　**自治会役員という避難所運営の責任を担う立場**にあります！
地域全体が甚大な被害を蒙り、ライフラインも止まりました。　カードに書かれた様々な事情を抱えた避難者、次々と入る連絡・照会、発生する事案・問題にどう対応したらよいのか、みなさんが協力して考え、図面に落とし込んでください。
今回はグループ発表にたっぷり時間を割いて、それぞれの対応でどんなことがポイントとなったのか・なぜそのような対応をしたのか、などをみんなで議論し、またコメントをしたいと思います。みなさんの「気づき」が大切です！？」

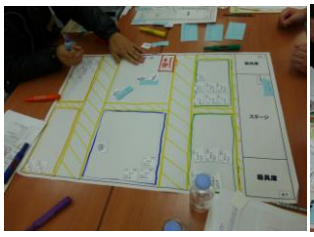
ファシリテーターが順に読み上げるカードの情報や事態に、最初は戸惑いながらも、ゲームの進行につれてエンジンがかかり、議論も白熱していきます。

ゲーム前の「アイスブレーキング」:

1. 役割分担を決める。
   - ファシリテーター
   - グループリーダー
   - 書記
2. なごやかに**自己紹介**。

中村講師・白田リーダーがテーブルを巡回。
やりとりを通じて、「何が正解か？」ではなく、みなさんは**「どんなことに気づいたのか？」「なぜそのような対応したのか？」**を引き出していきます。

≪体育館≫　最大スペースである体育館では、受付、通路、避難者スペースと割り振り、間仕切り、物資の保管などをどう配置していくかなどのポイントが議論され図面上に反映されていきました。



休憩時間に入っても議論は止まらない・・・・・エンジン全開！！

≪避難所全体図面≫　本部・受付や掲示板をどこに設けるのか、仮設トイレをどこに置くのが等で真剣な議論がされました。

4. グループ発表

全力投球の発表風景　発表者と中村講師のやりとり、講師のつっこみに会場爆笑　「気づき」もしっかり共有！

体育館スペースの割り振り、プライバシーの確保、間仕切り、物資の保管・配分、
学校の教室や職員室などの施設は使えるのか？予め取り決めておいた方がよいことは何か？
避難者リスト作成、避難者の戦力化の視点、個人情報の扱い、一時的避難者への対応、情報発信、
高齢者・要援護者・女性・子供の安心安全への対応、ペットそしてトイレ問題！……ポイントが浮び上がる。

中村 講師　コメント

まずは、今回ご参加頂いた皆さん・運営頂いた関係者の皆さん、滞りなくワークショップが終了できましたのも、皆さんのお陰です。ありがとう御座いました。今回も皆さんの「熱意・真剣さ」に感動・感謝です。「避難所運営」と言う同じテーマでも、グループごとに色々な意見が出て、「なぜそこに？」の見解も色々出てきます。それがいいのです。他の人の意見に耳を傾ける、なるほど、その考え方があったのか等々、ワークショップだからこそ出来る事だと思います。それが「気づき」です。機会がありましたら、またやりましょう。お疲れ様でした。

白田リーダー　まとめ

日常と非日常

ほとんどの人が生活をする上で大人の場合、仕事と趣味や家庭で「普通」に日常生活を過ごしていると思います。仕事の悩みや家庭での思いがけないトラブル、地域社会での付き合いなどからくるストレスを抱えながら、時々解放されたいとの思いから、非日常を求めて身近ではお酒を飲みに行き憂さ晴らしをするとか楽しい旅行をする、またディズニーランドで遊ぶとかして非日常で気分転換して能動的にストレス解消をしているのではないでしょうか？

しかし災害や犯罪には備えているが、特に自然災害はパターンが決まっていないし、ある日突然襲ってくるので、受け身上、災害に巻き込まれる率が多いと言えます。

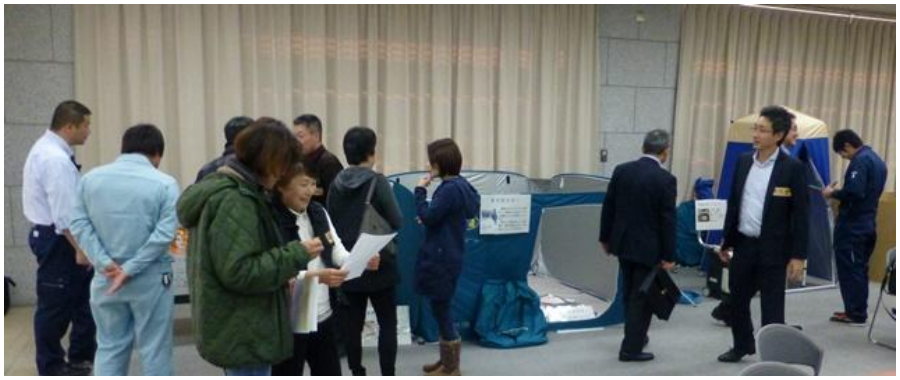
防災知識は専門家の話を聴いても、理解する場合もありますが、その防災行動に移る可能性が少ないようだ。何事も此れが完璧とは世の中に有り得ないが、**「知らないより、知っていた方がよい」**という見地から、一方では防災シミュレーション・ゲームを通して「気づく」と「見える化」を学び、防災に関しての引き出しの多さを積み重ねて行くことが**「万が一の時」**に役立つ大切な事だと思います。しかしながら情報過多などを取捨選択するのは自分自身に起因するが、難しく何が必要なのか研鑽を積み、また知識が少ない人たちに伝えて行くようになれば、防災知識や防災活動の上級者になるのではないでしょうか？

「人のお役に立つとは、自分のためになる」との信念で、他から跳ね返って来ないかも知れませんが、**継続して活動**することによって前に進むことだと信じています。

いずれにしても今回茨城県建築士会の要請によりワークショップを開催したことは、我々にも有意義であり、またワークショップ中や休憩時間、休憩場所等で、さらに一つ勉強もさせて頂きました。至らない点もあったと思いますが、平沼女性委員長、横須賀青年委員長並びに参加者の皆様に感謝申し上げます。

5. 閉会挨拶

平沼　女性委員長

初めての防災ワークショップで不安もありましたが、防災塾・だるまのみなさんに協力いただき、行政の方々の参加・協力も得て、36名の参加者が各グループで活発な話し合いができ、様々な気づきや発見をすることができました。
避難所について、今回運営する立場で考えることで、参加の方々が真剣に向き合い、たくさんのことを学んだと思います。
いつどこで起こるか分からない災害等に備えて、防災対応力を高め、
皆で支えあうことができる判断力を身につけておくことの大事さに気づきました。

「水戸市役所　地域安全課危機管理室」による防災グッズの展示風景